



## 未来はみんなの手の中に！ その2

昨年度（令和5年度）皆さんが2年次の時に発行した『年次だより第6号』の冒頭タイトルが「未来はみんなの手の中に！」でした。今回は多少関連した話題なので「その2」と題しました。少々以前（2017年）に出版されたのですが『未来の年表』（河合雅司著/講談社現代新書）という本があります。少子高齢化社会を迎える日本がこれからどうなっていくかを年表にして予測しており、この年の新書ベストセラーランキングに入ったとあり、一時話題となりました。さて出版されてから7年経って、どれほど予測が的中しているのか抜粋ですが見てみたいと思います。

- 2019年 IT技術者が不足し始め、技術大国の地位揺らぐ  
→ 中で良いかと。この本の出版以前から懸念されていたことではありますが。「地位揺らぐ」は解釈の仕方次第？
- 2023年 企業の人件費がピークを迎え、経営を苦しめる  
→ （一応）的中。さすがに著者も、コロナ禍明けや世界各地の紛争による物価高騰、人件費高騰までは予測できなかったようですが、結果的に人件費捻出に苦しむ企業は増えたようです。
- 2024年 3人に1人が65歳以上の「超・高齢者大国」へ  
→ 中。総務省統計局(R6.9.15)報道資料によると「65歳以上人口は3625万人と過去最多。総人口に占める割合は29.3%と過去最高。日本の65歳以上人口の割合は、世界で最高。（200の国・地域中）」

この本を読んで思い出したのが、私が小学生の頃から騒がれていた石油の枯渇問題です。当時「あと40年で石油はなくなります！」（30年、50年のパターンもあるようですが）と喧伝されていたのですが、どうやら2020年現在では石油の可採年数は約53年になったとのことです。（経済産業省資源エネルギー庁資料より）

未来の予測が難しいのは、未来が現在の延長上にはないからです。人類はイノベーションという特異点を経験するたびに、予測不能な未来に足を踏み入れてきました。例えば、インターネットの出現で社会は全く別の姿に変化してきました。石油可採年数の予想が外れてしまったのはイノベーションによって新しい油田が発見できたり、それ以前は採掘不可能であったシェールオイルを入手できたりしたからと言われています。

しかし、イノベーションは全くの偶然で起きるわけではありません。それまでの不断の努力が、ある瞬間に昇華していくのです。人の成長についても、同じような変化を感じる時があります。受験という大変な試練をくぐり抜けたとき、「変わったな」と感じられる生徒がとてもたくさんいます。これは成績のことではなく、内面的なものです。不断の努力の末に何かが変わっていくのです。だから、最後まで自分の可能性を諦めないください。なぜなら、成績が上からず思い悩んでいる人も、数字には表れないものが君の中で変化を待っているから。これ以上は無理という瞬間を乗り越えてこそ、次の扉が開くものだから。

### 【12月行事予定】

A：A週 B：B週 行：学校行事 家：家庭学習日 を表します

日	曜	A/B	予 定
1	日		
2	月	B	修学旅行（2年）
3	火	B	修学旅行（2年）
4	水	B	修学旅行（2年）
5	木	B	修学旅行（2年）
6	金	B	
7	土		部活動見学会（中学生対象）
8	日		
9	月	A	
10	火	A	
11	水	A	
12	木	A	
13	金	A	バイク免許所有者指導
14	土		部活動見学会（中学生対象）、課題論文中間発表会（2年）
15	日		

日	曜	A/B	予 定
16	月	B	きずなの日
17	火	B	
18	水	B	
19	木	B	
20	金	B	
21	土		
22	日		
23	月	A	
24	火	行	休業前集会、報告会、大掃除、音楽発表会
25	水		冬季休業開始（～1/6）、共通テストリハーサル（3年）
26	木		共通テストリハーサル（3年）
27	金		
28	土		
29	日		校内完全閉鎖（～1/3）
30	月		
31	火		

## 保護者のみなさまへ

今年も残すところあと1か月となりました。保護者の皆様にとってもいろいろな思いが交錯して、落ち着いた日々が続いていると思います。同じように、受験生である生徒たちには今まで経験したことのないストレスがかかる時期です。いつも通り家庭で心温まるひとときを持っていただくことが、生徒たちにとって明日への活力になりますので、ご家庭はおおらかに構えていただき、子どもを信じ、励ましていただければと思います。また、風邪やインフルエンザが流行する時期ですので、体調面でのサポートにつきましても、よろしくお願いいたします。

◎4組担任の齋藤良太先生からの寄稿を紹介します。

私事ではありますが、10月に2人目の子供が生まれました。赤ちゃんはというと、「ついこの前はミルクを60mlも飲めなかったのに今日は120ml飲めるようになった!」「少し大きくなったのか顔が丸くなった気がする!」など、ほんの小さな成長ですが、親として成長を感じることは嬉しい限りです。そんな子供たちが、あと15年ほどすれば高校入試や大学入試を迎えるのかと受験を控えている3年生の担任をしているので、そんなことを考えることもあります。目の前にいる0歳3歳の子供が十数年後に古文漢文を読めたり、3次関数の極値を求めたり、英語の長文読解をしたり、共通テストを時間内に解けるようになったり…と皆さんのようになれるのかと考えると、これまで小学校、中学校、高校までに積み上げてきたものの大きさや偉大さを改めて感じます。いろんな人たちの支えがあったからこそではありますが、そうは言っても本当にこれまでよく努力してきましたね(乳幼児と比べてすいません…)。模擬試験の成績や周囲の結果等で一喜一憂や焦ってしまう気持ちは十分わかりますが、これまでみんな頑張ってきました!自分の成長にもしっかり目を向けてあげて、自分の可能性を信じて、「チーム西高」であと少し粘り強く頑張っていきましょう!

◎4組副担任の鈴木唯先生からの寄稿を紹介します。

### 「ネガティブを潰すのは没頭である」

鈴木には、あまり人には言っていないけれど毎週心の支えにしているものがあります。「オードリーのオールナイトニッポン」です。自分が中学生の時からずっと聴いていて、かれこれもう16年になります。時は遡り、中学生の時。当時の私は話すことがとても苦手で、どうしたら人とうまく話ができるのか?と悩み続けていました。お笑い芸人のあの話し方が身に付けばいいのになあ、と思ってラジオを聴き始めました。そして、今でも立派なりトルトゥース(リスナー)です。今、喋ることを仕事に出来ているのは、オードリーのお二人をはじめ、勉強させてもらった芸人さんたちのおかげです。

素の私はびっくりするぐらいネガティブ人間です。毎晩が反省会。あれ相手は気にしていないかな…だとか、言わなきゃいいこと言ったな…とか。30代の危機(クォーターライフ・クライシスと言うそうですよ)とか。そうして堂々巡りになりそうなとき、高校時代の私を勇気づけてくれた本の一節がよぎるのです。

「ネガティブを潰すのはポジティブではない。没頭だ。」[若林正恭『社会人大学人見知り学部 卒業見込』より]

一人反省会の穴を掘り続けても、結局それはただの穴で、外に出て動き回った方がいい。であれば、どよんどよんしている時間は勿体なくて、どんどん手を動かした方がいい。そうやって、なるべく後悔なく人生を歩めるように。自分の心根を変えるのは難しくても、自分が今日何をするかは変えることが出来るから、少しずつ。あなたのネガティブ・モンスターが現れたら、ぜひ「没頭」してみてくださいね。

